



菊池北中の新しい柱

令和7・8年度 菊池北中学校 生徒会三役決定

【生徒会長】 中村 百花(2年生)

【副会長】 佐々木 希(2年生) 米村 友花(1年生)

【書記】 野満 泉純(2年生) 越猪 楓香(1年生)



2025年の学校生活が今日で終わります。1年生はとにかく先輩の姿を見て大元についていける。2年生は1年生の経験を生かして、自分たちの余韻を持って活動にあたることでいい。3年生は、いよいよ冬の試験と向き合う時期になりました。学校生活においては、「後輩たち!! あとは任せろ!!」そんな声が聞ける。2026年は新三役の5名を中心に、全校生徒の力によって、さらに飛躍した活気ある北中を目指してほしい。先輩たちの築いてきた伝統を引き継ぎつつ、来年はまた新しい風をふきおこして、小さな嬉しいこと。

夢いっぱい!!

後期前半、本当によくがんばりました。特に印象深いのは、やはり「菊心魂」です。各学年のステージ発表も、そして合唱コンクールも、本当に素晴らしかったです。あらためて、君たち北中生徒を誇りに思います。その中でも、やはり3年生は、「この最上級生」だったと感じました。2026年、新しい時代の幕明けです。1年生は「中堅学年」に向かい、2年生は「学校の真のリーダー」となるための決意と風を吹かせる時期に入ります。この北中の菊池北中学校の進化を共にしています。

後期前半の締めくくりの言葉

令和7年度は、菊池北中学校のこれまでの先輩方が築いてこられた伝統を、しっかりと受け継ぐ君たちの姿を多く見てきました。集会時の座礼の取組や、立ち止まって挨拶などです。そして今年「校門一礼」という新しい北中の伝統が生まれました。ところで、君たちは毎日教室で「菊心魂」と「北中綱領」を唱和していますね。これも菊池北中ならではの伝統になっています。今日は、この菊池北中で「菊心魂」「北中綱領」と同じく、長きにわたって大切にされてきた「北中七則」について話します。ここには、北中生徒として学んでほしい願いが込められています。全部で七つありますが、その中の一番目に書かれてあるものを紹介します。

これは、簡単に言えば、「人はみな「何かを成し遂げる」ための使命を与えられて生まれてきた。だから、立志、すなわち(夢を持つ)心を持ち、努力して自分自身の人格を完成させていきなさい」という意味になります。君たちに「夢」はありますか？単純に将来なりたい職業とか、そういうことではありません。自分はどうな大人になりたいのか、そして、どんな生き方をしていきたいのかを思い描き、言葉にすれば、それを「夢」と言います。北中七則の一番最初に書かれてあるメッセージは、本年度の学校教育目標「生きる」の夢いっぱいにもつながるのです。

北中七則や北中綱領には、多くの古い言葉も使われていますが、現在に通用するだけでなく、未来にも生かされる内容です。本校の生徒(卒業生)は、等しくこの教えに触れてきました。数多くの先輩方が築き上げてきた北中の伝統文化の源流がここにあります。このような伝統が引き継がれている学校は、他にはほとんどありません。折に触れて、この言葉の意味を思い起こしてください。

令和七年はあと一週間で終わりですが、令和七年度はまだ後期後半が残っています。この4月から、君たちの「感動いっぱい」の姿をたくさん見てきました。これから、「夢いっぱい」の君たちが見たいです。夢を持ち、その夢に向かって一生懸命に努力し、自身の成長につなげてください。

以上、後期前半の終了の言葉とします。良い年を迎えてください。2026年1月7日、また元気に会いましょう。



北中七則

一、菊池に生誕する人、生を受くるに、必ず使命あり。この使命を自覚して、志を立て、筋骨と若し、心魂を磨き、自己の創造に尽すべし。